

佐川優子さん 避難訓練

副支部長 佐川 優子

佐川優子です。原発事故によって北海道へ来た私は、避難訓練をずっと希望していましたが、去年9月初めて実行しました。

担架は毛布を利用しました。いつも危機は想定しています。訓練中階段を降りるときはスタッフが心配でしたが、仲間に入れたよううれしかった。

北海道支部の皆さんの役に立ったらうれしいです。

佐川ゆうこさん 避難訓練計画書

日時 2017年9月21日(木) 9:00~10:15

場所 ゆうこさん自宅

参加者 6名

スケジュール

09:00 訓練前の事前説明会
(15分程度)

09:15 訓練開始
訓練想定

電源確保ができない状況が続き電気を必要とする機器が使用できない状況になった場合の避難を想定(電源確保できる場所への避難)

介助中のスタッフは、応援のスタッフが駆けつけるまで安全を確保しつつ待機。

応援に来たスタッフは車いす・赤バッグ

・(4階から1階エントランスへ階段を使って)



*車いすを2名でエントランスへおろす。

*上記2点をエントランスへ運搬後、部屋に戻り搬送に携わる。押入れより毛布を用意する。毛布をゆうこさんの体の下に敷く。

スタッフ2名で対応

*スタッフ4名が全員集合するまで、その場にてゆうこさんの介助を行いつつ待機。

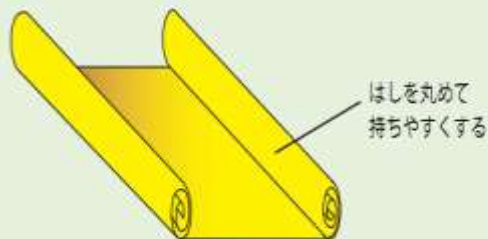
呼吸器・吸引器を持ち運べるようにバッグに入れる。スタッフ1名で対応

*スタッフが全員集合するまで、その場にてゆうこさんの介助を行いつつ待機。

搬送はスタッフ全員が揃った時点から開始、4名のスタッフで毛布の四隅(頭の両脇、お尻の両脇)を両手でつかむ。

③毛布のはしを丸める

毛布のはしを丸めて、持ちやすくしておきます。



「BOKKOMIスクールガイド防災教育実践ガイドブック」(神戸市、財団法人神戸市防災安全公社、NPO法人プラス・アーツ)に基づき作成

*移動中の事故・怪我に注意、持ち続けられないときは他のスタッフに声をかけて、一旦態勢を整える。

呼吸器を運ぶスタッフ 1 名、*移動中、フレックスチューブやカニューレが外れないように注意。
エントランスの車いすへ移乗、呼吸器・吸引器を車いすに乗せる
+赤バックを車に積み込む、
車に乗り込む、ゆうこさんに状態確認（外傷等有無の確認）をし、
発車する準備を整えたところで訓練完了。